

# エコと地域資源を生かした町づくりを学ぶ



町並み保存地区に指定され、古き時代の建築物等が保存されている「勝山地区」を巡る視察団

輝くふるさと常任委員会の県外研修は昨年11月9日から12日まで、鳥取県米子市、岡山県真庭市を訪問し、エコと地域資源を生かした町づくりを視察しました。

## 輝くふるさと常任委員会県外研修

### ◆11月9日(火)

#### 「湧くわく温泉ラピスバほか」

ヒートポンプシステムを利用し、温泉施設や温泉プールを運営するほか、廃湯(水)を冷暖房に利用している施設を視察しました。

### ◆11月10日(水)

#### 「ひるぜん焼きそば」

「B級ご当地グルメ」による地域活性化への取り組みを視察。「ひるぜん焼きそば」は、昨年9月に開催された第5回「B-1グランプリin厚木」のシルバードランプリに輝いています。

### 「ひるぜんワイナリー」

地元産山ぶどうを使ったワイナリーづくりを視察。ワインの絞りかすを再利用した蒸留酒(グラッパ)の製造にも取り組んでいます。

### 「ひるぜんジャーシーランド」

蒜山(ひるぜん)地域から生産されたジャーシー牛乳を使った牛乳、チーズや牛肉の生産から、プリンやシュークリームなどのスイーツの製造まで手がけています。

### 薬だけで1日かかり

葛巻病院

しい中、岩手愛児会からの応援により、21年11月から週3回の診察を行なっています。また、小児科医師がいない場合でも、内科医師や当直医師が対応しています。

問 薬をもらうだけで1日かかる。月2回の通院で問診は必要ないと思うが。  
答 医師法の定めにより、薬の処方には必ず医師の診察が必要です。ただし、医師の診察前に状況を看護師が問診し、その情報を医師に提供することで、少しでも待ち時間を減らそうと努力しています。

### 生徒減で部活不十分

教育委員

問 生徒数の減少により、部活動が十分にできない。  
答 複数の学校の児童・生徒によりクラブ活動ができるよう、送迎バスの運行などの対策を行ないます。

### 通学バスの利用拡大

教育委員

問 小屋瀬と同じ距離でも、五日市の高校生はバスを利用できない。  
答 原則6キロ以上の生徒を対



誰もが願う健やかな成長(五日市保育園と江刈デイサービスとの交流会)

象に、23年度から利用できるようにします。



新年度から利用区域が拡大される葛巻高校への通学バス

### センター維持・修繕

教育委員

問 地区センターの運営に地元負担が伴わないようにできないか。

### ◆11月11日(木)

#### 「真庭市長/真庭市議会訪問」

#### ◆井手真庭市長

市域の8割を占める山の資源を活用した新たな産業興しが重要と話し、林地残材の活用について、超微粉碎(ナノファイバー)した材料からプラスチック、エタノール、水素などの製造に向けた研究開発に取り組んでいると話します。

#### ◆森田市議会議長

市にとっては、バイオマス関係の産業興しが命綱となっている。地域主権一丁目一番地と言われているが、当局、議会ともに能力を付け、頑張っていかなければならない。議会では現在、「議員政治倫理条例」を制定し、議会基本条例の制定など活性化に向けた取り組みを進めていると話します。

#### 「バイオマス推進の取り組み」

「バイオマスタウン真庭」の取り組みを視察しました。平成18年3月に策定した「真庭市バイオマス活用計画」を推進し、木質バイオエタノール製造実証試験、木片コンクリートの製造、木質ペレットをはじめ

答 維持管理費と3万円以下の小破修繕は、指定管理者が負担するよう契約で定めています。

### 活動助成や指導者を

教育委員

問 少年団・青年団への補助の増額や、指導者の育成を検討して。

答 青少年健全育成ネットワークの活動強化と併せて検討します。

### 五日市保育園裏の木

教育委員

問 裏のカラマツを伐採して。地権者と協議します。

### 遊休農地の有効活用

農業委員

問 遊休農地が点在するが、車や農作業機械が通行できる幅の道路がないため活用できない。農業委員会で検討できないか。

答 町に道路整備の要望を行なうとともに、農地パトロール等の強化を図るなど、遊休農地の発生防止や解消と農地の利用集積に努めていますので、農業委員会事務局へ相談してください。

#### 「勝山地区町並み保存」

古くから真庭地域の政治・経済の中心地、出雲街道の宿場町として栄えた「勝山地区」の、今もなお往時の面影を残す建築物や川沿いの景観は、昭和60年に町並み保存地区に指定されたあと、行政と住民の協働事業によって景観が守られ、町並み全体が観光地を形成しています。

### ◆11月12日(金)

#### 「全国消防操法競技会」

岩手県代表として、本町消防団第6分団が小型ポンプの部に出場。競技では、本町消防団の心意気を示すも入賞を逃しました。

#### ◆

町域の8割を森林が占める本町においても、酪農の振興とともに、地域にある資源を生かした産業の創出が町発展の鍵を握るものと思われれます。